
流星群～自由に奏でた田舎少年～

ミヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星群〜自由に奏でた田舎少年〜

【Nコード】

N0413D

【作者名】

ミヤ

【あらすじ】

あなたは夢を持っていますか？この物語は田舎に暮らす少年が、大きい夢に向かって進むお話です。少年の前に立ち塞がる壁。夢を叶えるためにどんな困難にもいろんな仲間と立ち向かう姿を物語にしてみました。

プロローグ（前書き）

どうも初めまして。産まれて初めての小説だから理解できないところがあるかもしれません。

例えば会話の中で東北訛りを度々使うと思います。読んでくれる人みんなに楽しんでもらいたいので、ある程度は解説も一緒に書きますが

もし分からない言葉がありましたら遠慮なくお申し付けください。

プロローグ

子供の頃どんな夢を持っていましたか？

警察官。大統領。ボクシングチャンピオン。

その夢はいつの日か無くなり、また違う夢を持つ。

宮田 雅樹 16才

東北地方の田舎に住むこの少年はミュージシャンになりたいという夢を持っている。

少年は心に決めた。これだ…。

ミュージシャンは楽になれるものじゃない。

無謀な挑戦とも言える少年は夢を叶えることができるのか。それともまた挫折してしまうのか。

それでは早速、彼の人生を覗いてみましょう。

第一曲 人生を変える日

『やべえ…バンドやろうぜ！バンド！』

思い出した。この一言で俺の人生が一気に変わったんだ。

高1の秋

『ミヤ、今日暇？ミヤン家で遊ぶべ！』
『いいよ』

今日家に遊びに来るのはタカだ。

タカ

タカは筋トレが趣味で毎日鍛えてる。

優しい顔して性格もナイス。タカにあまり彼女ができないことに俺はずっと疑問を抱いていた。

家は高校から1Kmもない。こんな近さから、いつしか家は暇人の溜まり場となっていた。

確かに家は3階建ての家で、1階は卓球台やパチスロ台があり、3階の俺の部屋ではゲームがあって昼寝もできる。

家の前でもバスケット、サッカー、野球などでもできるから友達も家で遊ぶのが好きみたいだ。

もちろん俺もこの家は好きだ。でも…。

『あ！これギタドラじゃね！やりたい！』

タカが目を輝かせていう。

ギタドラはPS2の音ゲー。ドラムとギターでセッション（演奏）する結構楽しいゲームだ。

そしてこのゲームには専用コントローラがあり、それを本体に繋がると更にリアルに楽しめる。

俺も昔はこのゲームは結構得意だった…。

『ミヤ、ドラム叩けんの？？』

『当たり前じゃん！』

自信満々に言ってみた。そしたら…

『じゃあ俺ギターやるからドラムやって！』

タカはそう言っただけで、俺にドラムをやるように言った。

（やば…これ中学以来やったことねえよ。

でも今さら嘘だよなんて言えないし。）

曲が始まると同時に少しずつ感を取り戻し初めた。

レベルの低い曲を選んだのが正解だった。

そんなにミスらずに済んだからだ。

『すげえ！本当に叩けてんじゃん！すげえなミヤ！』

『あはは…あんがと。』

なんとか恥を欠かずに済んだ。

この後もずっとギタドラを二人で盛り上って楽しんだ。

タカは電車の時間が近づいてきたから帰る支度を始めると、

『ミヤはドラム叩けたんだなあ。これはヨッシーに知らせなきゃ。』

『何で！別に知らせなくていいよ！俺アイツとあまり仲良くないし。』

」

ヨッシー

タカと仲が良くていつも一緒にいる。

ヨッシーを初めて見た時の第一印象は悪かったから仲良くなる気はあまりなかった。

『ヨッシーは確かに感じ悪いけどいい奴だよ！じゃあまた明日学校でね！バイバイ！』

タカが俺に手を振る。

『うん。また明日！バイバイ！』

と言って俺も手を振る。

次の日

教室のドアを開けると数人の友達が一つに固まって会話をしていた。タカもその中にいた。

『あ！ミヤ！聞いたよ！ドラム叩けるんだって？』

大声で俺の元へ来たのはヨッシーとバンだ。

バン

クラス1のイケメン。あまり学校に来ないけど変態で面白いやつだ。ちなみにバンもタカ同様、家の常連客である。

（さっそくか…てかタカのやつバンにも話したのか。）

まっいつか…隠してたわけでもないし。

『簡単なやつだけしかできないんだけどね。』

俺がそう言つと

『へえー。以外だなあ。俺もベースできるんだけど俺達バンド組むか！？』

『…え！？バンド？』

『いーじゃん！じゃあ俺がヴォーカルやる！』

ヨッシーがヴォーカル…。俺にとっては少し複雑な気持ちだ。

『バンド組むと楽しいぜえ！』

（バンの野郎…余計な事を。）

軽くバンを睨んだ。

別に組んでもいいけど、本当に俺でいいのか…？

ゲームでは確かに叩けたけど、本物は叩いたことがない。
できなかったら……。

『ごめん、少し考えさせて』

そう言つとバン達は

『分かった。なるべく早く答え聞かせてね！』

『うん。』

その日から俺はずっと悩んでいた。バンドを組みたくないと言えば嘘になるけど、実際本物のドラムを前にして叩けなかった場合、きっと俺をバンドから外すだろう。それは別に構わない。

でもその後、友達として仲良くなれるのか凄く不安だった。
仲間外れとかするのもされるのも嫌いだからとても恐かった。

そのまま答えが出せずに何カ月も過ぎた。
いい加減バン達に答えを聞かせないと…。

バンやヨッシーもこのままこの話を自然消滅されたら腹が立つだろう。

というより、あの二人は本気でバンドを組む気なのか。

これだけ待たされても平気な二人を見ると正直疑ってしまう。

このまま忘れてくれるのを待とうか。そんな事を考えたこともあった。

でも、それじゃ自分自身納得がいかない。

答えを出そう。

俺にとって人生を変えた日がやってきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0413d/>

流星群～自由に奏でた田舎少年～

2010年12月18日14時04分発行